

## 1. はじめに

市街地の樹林は住民に風致・快適性を提供しているだけでなく、気温や地温の平準化、防風、大気の浄化、防音、防火等の多面的な効用を持っている。豊田市矢作川研究所は、豊田市中心市街地の自然環境の現状を知り、その回復を通じた快適で魅力あるまちづくりの提案を行うため、2002～2005年度にかけて調査を行った。調査対象としたのは植物、昆虫、鳥類、魚類等水生生物である（間野、2007；間野ほか、2006；間野・高木、2007；洲崎、2007）。その結果、矢作川と枝下用水、根川用水といった農業用水沿いに、コナラなどを主体とした小規模な里山的な広葉樹林が点在し、コクワガタなどの森林性昆虫やオオムラサキなどのチョウ類が生息していることが分かった。また挙母神社ではササゴイや猛禽のハイタカ、児ノ口公園ではアオバズクといった鳥類が、児ノ口公園の池と都市河川の安永川ではメダカやドジョウなどの魚類が確認された。こうした多様な生物がバランスを保ちながら生息できる自然環境を増やす（つなげる）とともに質を高めることが提言された。

この調査結果を2008年に矢作川研究所のシンポジウムで発表した際、「川と自然を生かしたまちづくり」と題した基調報告を行って頂いた愛知教育大学の和田道雄教授（現在は名誉教授）から、盆地である豊田の市街地ではまちなかの緑が、ヒートアイランド現象を緩和するために重要な存在であるとの指摘があった。この指摘により、豊田の市街地の自然がとりわけ気象環境の改善という点で、大きな役割を担っていることが認識された。

2015年、名古屋市で10年振りに、市民参加による真夏の一斉気温調査「名古屋気温測定調査2015」が企画された。その実行委員会メンバーと矢作川研究所の研究員につながりがあったことから、豊田でも同日に同じ方法で気温調査をしようという機運ができた。豊田では6月に実行委員会が結成され、名古屋気温測定調査2015実行委員会の全面的な協力と水銀温度計の貸与を受けて、8月8日（日）に約160名の参加により、「豊田気温測定調査2015」が実施された。この日には名古屋、豊田のほかにも多治見、春日井でも一斉気温調査が実施された（名古屋気温測定調査2015実行委員会、2016）。



調査の準備